

令和7年度

みやぎの算数教育改善プラン事業モデル地区

塩竈市の取組

モデル校

塩竈市立第一小学校

塩竈市立第二小学校

塩竈市立第三小学校

塩竈市立月見ヶ丘小学校

塩竈市立杉の入小学校

塩竈市立玉川小学校

1 事業の概要

(1) 事業年度

令和7年度～令和9年度

(2) モデル地区

登米市、塩竈市 指定期間1年間（3年まで延長可能）

(3) 塩竈市の指定校

第一小学校、第二小学校、第三小学校、月見ヶ丘小学校、杉の入小学校、玉川小学校

(4) 事業内容

各小学校の実態に応じた算数科の授業改善
A I型ドリルを活用した学習支援体制の確立

(5) 指定校の取組

- ① 伴走支援の下に小学校全体で算数科の授業改善に取り組む
- ② A I型ドリルを活用したC B T方式の単元テストの実施と学び直しに取り組む
- ③ 1人1台端末やA I型ドリルを活用し、授業と家庭学習の効果的な連携の下での家庭学習の充実を図る

(6) 検証のポイント

- ① 「算数が好き」と答える児童数を増やす
- ② 「授業が分かる」と答える児童数を増やす
- ③ 「家庭学習時間」を増やす

2 訪問の実際

(1) 訪問実績

① 参観授業等

	訪問した回数	参観した授業数	指導・助言した教員数
合計	130回	417コマ	82人

※その他、授業づくり相談、校内研究への助言等を実施

② 校内研修での講義及び助言

③ 塩竈市情報交換会の企画・運営

※11月、塩竈市教育委員会が主催

※総合教育センター課題解決研究の長期研修員、

A Iドリル担当者が情報提供者として参加

※登米市指定校の担当者がオンライン視聴（希望者）

(2) 訪問日の基本的な一日の流れ

時程	9:00頃	午前	午後	放課後	16:30頃
内容	訪問	授業参観 (3コマ)	授業通覧 資料作成	事後検討	退校

みやぎの算数教育改善プラン事業

(3) モデル校における伴走支援の内容

- ①授業づくり支援（児童の実態及び授業者の意向確認、単元構想、指導のねらい・手立て、評価方法・評価、授業参観後の振り返り、A I型ドリルの活用方法等）
- ②校内研究における支援（研究主任に対する研究推進のための助言、学年・学年部研究における授業づくり等の助言、研究授業の事前・事後検討会における助言）
- ③管理職との情報共有（授業改善状況の共有、支援の方向性の確認・提案等）
- ④要請に応じた支援（校内研修における講話・演習、学力調査の分析支援等）

3 事業の成果

(1) 検証のポイントから ※数値は肯定的な回答の割合（対象:モデル校2～5年生）

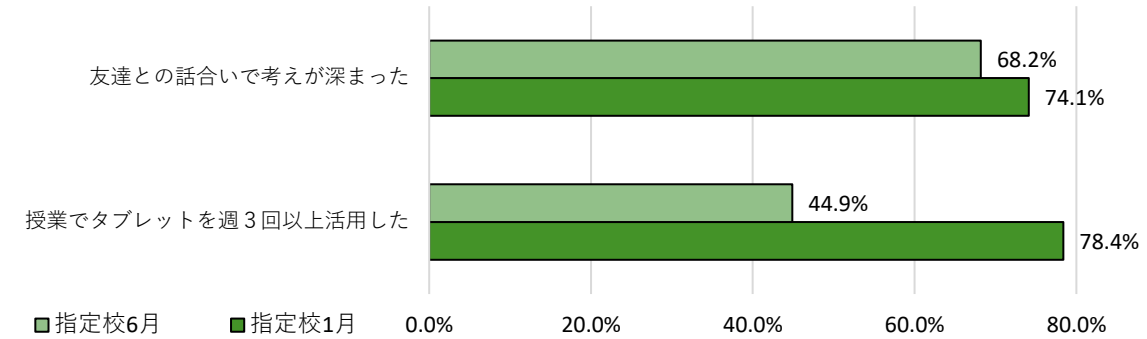
項目	1回目6月	2回目1月	比較
算数の勉強が好き	72.6%	79.4%	+6.8
算数の授業の内容が分かる	78.9%	82.3%	+3.4
平日の家庭学習が1時間以上	23.1%	28.4%	+5.3

※「好き」より「分かる」が先行して向上

※3点とも特に上学年が向上

(2) 児童アンケートから

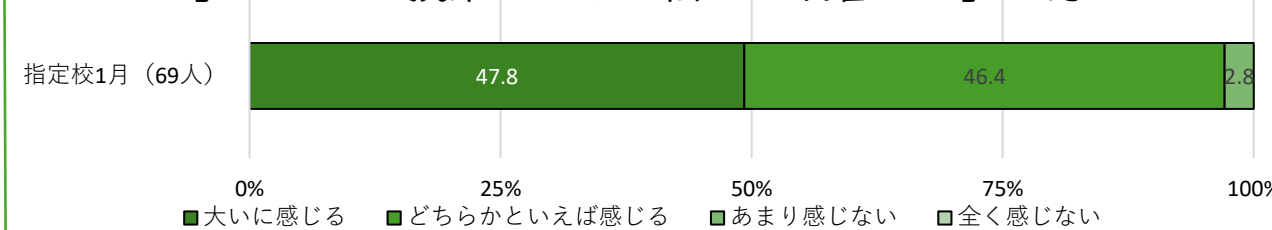
①算数の授業中に関する2つの設問から



※「算数が分かる」とのクロス集計から
「深まった」児童の94.2%が「算数が分かる」と回答
「週3回以上」児童の83.5%が「算数が分かる」と回答

(3) 教員アンケートから

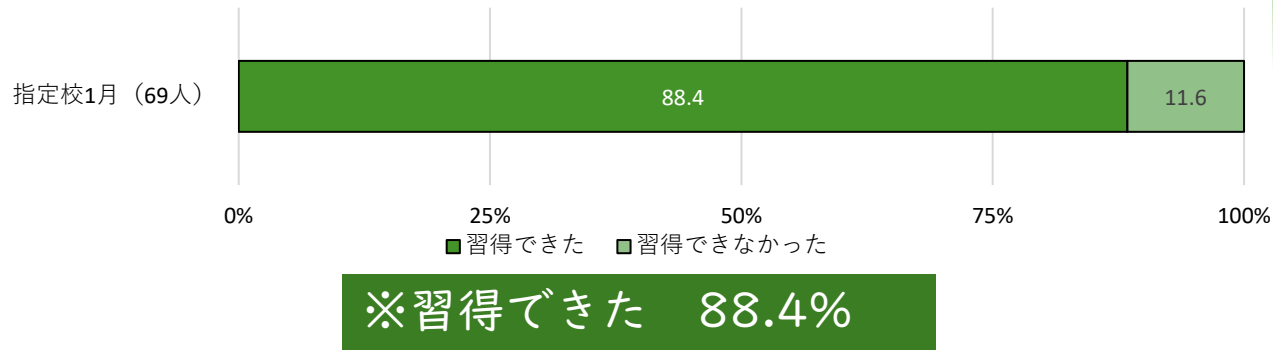
①担当指導主事との対話を通して「授業づくりに自信がついた」または「授業づくりの悩みが改善した」と感じるか



※肯定的な回答 94.2%

みやぎの算数教育改善プラン事業

②授業で活用できる具体的なスキルを習得できたか

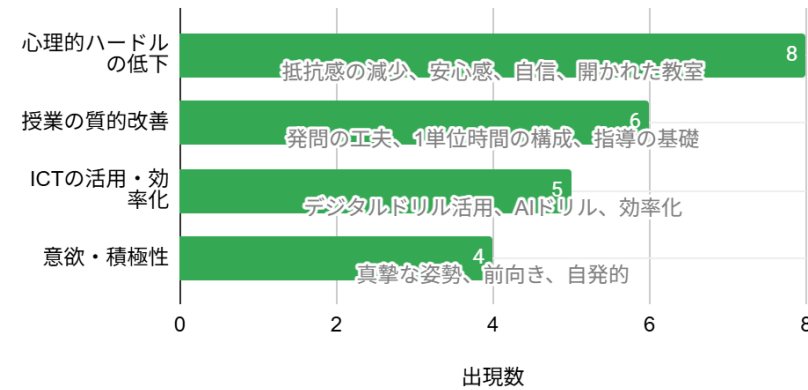


③授業提供回数と教員アンケート結果のクロス集計から

授業回数	教員の意識の変容
① 1回目	スキルの習得。授業改善のハードルは高いが、指導主事との対話で「安心感」を得る。
② 2回目	授業中の児童の反応が変わり始め（意欲向上）、教員が授業改善の「手応え」を感じる。
③ 3回目～	授業づくりの基礎から「児童の実態を踏まえた具体的な課題」にシフト。教員の自信が高まる。

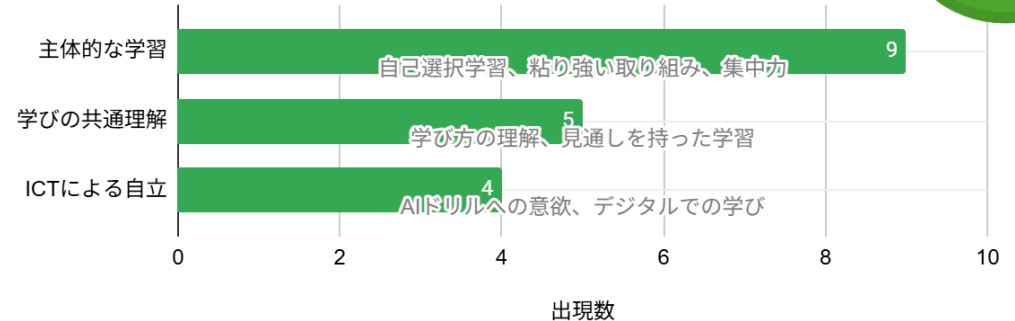
（４）管理職アンケートから

①定期的に指導主事が訪問して授業を参観することにより、教員に変化は見られたか
教員にみられた変化や姿（自由記述より）



②本事業を通して、教員が授業改善に取り組むことにより、児童の学習への姿勢や取組等に変化が見られたか

児童の学習への姿勢や取組等の変容（自由記述より）



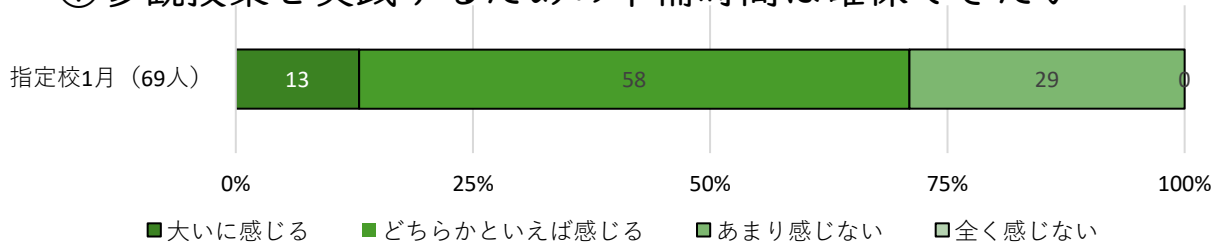
4 事業の課題

(1) 検証のポイントから

※「分からないし好きではない」、「分かるが好きではない」児童への支援及び心理的安全性を担保した授業づくりの必要性

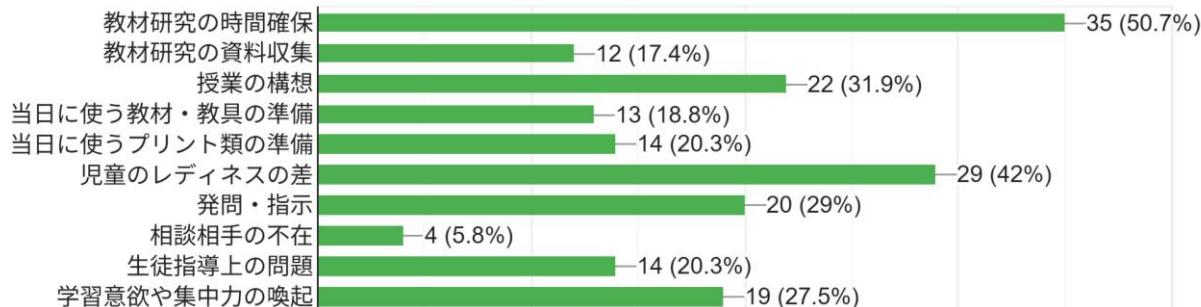
(2) 教員アンケートから

① 参観授業を実践するための準備時間は確保できたか

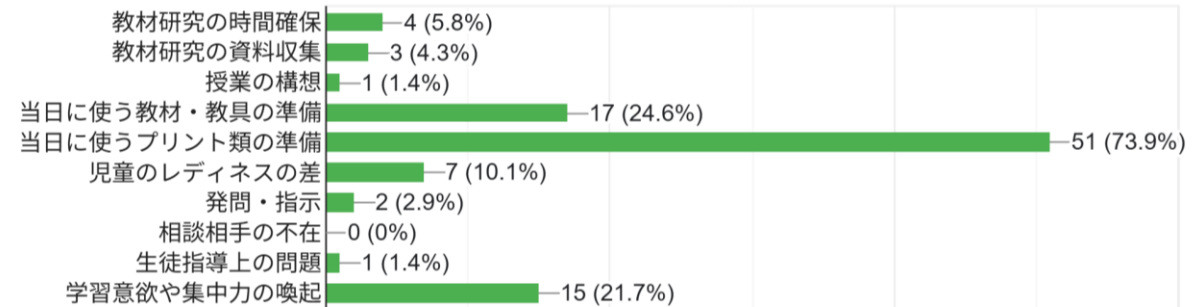


※あまり確保できなかった 29.0%

② 授業改善の取組で困難に感じた点



③ AIドリルの活用で減る負担



※AIドリルの活用で減る負担は、困難に感じた点の一部に留まっている

(3) 塩竈市標準学力調査結果から

① 4月と12月の算数正答率（全小学校）の差

2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
-3.6	-1.5	2.7	0.4	-0.1

※上学年に伸びが見られるが、学年間の差が大きい
 ※下学年におけるフォローが急務